

高さ7メートルのモニュメント

淡路 大石美術館と夢舞台連携

淡路市の画家・大石可久也さん(88)が、世界的建築家・安藤忠雄さんの依頼で制作したモニュメントが同市に完成し、1日、お披露

目式が行われた。安藤さんが設計した淡路夢舞台(夢舞台)から「アート山大石可久也美術館」(楠本)へ

の途中にある遊歩道の入り口にあり、大石さんは「モニュメントが美術館に足を運んでもらうきっかけになれば」と話す。

同美術館は「NPO法人淡路大磯アート山を創る会」が運営する。館内には大石さんの絵などを展示、

敷地内には、レンガと石で作られた円すい形の「美の女神」など、自然と調和したモニュメントが並ぶ。

2月に安藤さんが同美術館を訪れた際、「美の——」を気に入り「美術館の目印として同じ物を作り、夢舞台との連携を深めよう」と同NPOに提案。大石さんらが夏頃から制作していた。モニュメントは「夢・アート しあわせの鐘」と名付けられ、高さ約7メートル。頂上部には鐘が取り付けられた。この日は、大石さんが鐘を鳴らし、モニュメントを披露した。

淡路夢舞台国際会議場では、大石さんや同NPOの会員らの作品を展示する「愉快的仲間たち展 in 淡路夢舞台」を10日まで開催。午前10時～午後6時(10日は同3時まで)。



鐘を鳴らしてモニュメントを披露する大石さん(淡路市内で)